

御 ONJUKU 宿

No.526

新春号

2007.平成19年

謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに

町民の皆さまが健やかで心豊かな一年と

なりますことをお祈りいたします



「念頭所感」 『知恵と汗で最大の効果を』



御宿町町長
井上七郎

いた行政の一層の効率化、さらに歳出削減、事業選択により限られた財源で最大の効果を生むための取り組みに努めてまいりました。

を抑制すると共に、定住化への受け入れ態勢を整えることが早急な課題となります。

また、「三位一体の改革」の実質的な実施となる19年度からは、税源移譲が地方にとって大きな影響を与えることとなります。これまでの国から財源を配分する形態から、

自らが課し、徴収する税への転換であり、徴収努力などの取り組みが求められます。

そのため、新年度は「更なる分権推進の年度」と位置づけ、国・地方・民間の適正な役割分担による行政運営、また歳入に見合った歳出構成を構築し、自らの判断と責任による簡素で効率的な財政運営の遂行が重要となつてまいります。

このような国・県の基本的な方針や諸施策と連携を保ちながら、町では、平成19年度を初年度とし、平成24年度を目標年度とする「後期基本計

画」を策定中です。この基本計画は、基本構想の「自然の恵みを継承し、心やすらぎ、未来躍動する夢多きまちづくり」の総仕上げを目指し、少子高齢化や情報化の進展、環境問題など社会・経済情勢の変化に的確に対応しながら、町の資産を有効活用し、住民と一体となった協働のまちづくりの行政運営を実施していくための施策を具体的に示すものです。また、この計画は、住民の皆さまの深いご理解と積極的な参加をいただき、事業を推進していくための指針でもあります。

次に福祉におきましては、18年4月からスタートした障害者が地域で安心して暮らせる社会の実現を目指した障害者自立支援事業に加え、19年4月からは地域包括支援センターを設置します。これは、地域で暮らす高齢の皆さんが健やかに住みなれた地域で生活していけるよう、介護・福祉・健康・医療などを総合的に支えるために設置するものです。今後も高齢者が安心して暮らせるアドバイス、お手伝いはもとより、町が行う介護予防事業の一層の充実、さ

新年明けましておめでとうございます。町民の皆さまにおかれましては、輝かしい平成19年の新春を、健やかに迎えることと心からお慶び申し上げます。

さて、近年の我が国の経済状況は、景気回復が続くとさわれていますが、雇用情勢や原油価格の動向に加え、ゼロ金利政策の解除による影響など、依然として先行きがいまだ不透明な状況であります。

このような厳しい経済環境のもと、町では、「ゼロ予算事業」をはじめ、第4次御宿町行政改革大綱・集中改革プランに基づ

「議会が民主的 地方自治の基礎」 を再自覚します



御宿町議会議長
伊藤 博 明

を再自覚します

続き推進することができるよう見
とが予想されま
直しを進めています。

地方財政にお
いては、国の取
組みと歩調を合
わせ、地方公務
員人件費の削減
針となる後期基本計画や3か
年実施計画の策定を行ってお
ります。三位一体の構造改革
による国・地方・民間への役
割分担を明確にしていくこと
もに、町行政は住民の皆さま
と協働で取り組まなければな
らない事業や住民サービスの
見直しをも視野に入れたさら
なる行政改革を一層押し進め
なければならぬ状況となつ
ております。

に伴う事務処理の整理や議会
制度における改善など、議会の
運営について住民が理解しや
すいような制度の見直しも検
討しているところです。すで
に本年に予定しております町
議会議員一般選挙においては
議員定数を12名に削減するな
か、議員自身が「議会が民主
的
地方自治の基礎である」こ
とをしつかり自覚しつつ議会
活動に邁進する所存でござい
ます。

らには医療機関を含め、関係
機関とのネットワーク作りに
も力を入れてまいります。
以上、町では厳しい財政状況
を踏まえ、最小の経費で最大限
の効果を念頭に、現在新年度の
予算編成を行っております。こ
うした厳しい状況のなかで、
直面する施策課題は困難を伴
うものばかりであります。

新年あけましておめでとう
ございます。輝かしい新春を皆
さまとともに迎えられるました
ことを、御宿町議会を代表して
心よりお慶び申し上げます。

皆様方には、日ごろより
町政運営、並びに議会運営に
対する温かいご理解と絶大な
るご協力を賜り、深く感謝と
お礼を申し上げます。

また、地方分権改革の推進
にも着手しており、国及び地
方公共団体が分担すべき役割
を明確にし、地方公共団体の
自主性と自立性を高め、自ら
の判断と責任において行政を
行うとともに、地方自治法の改正

本年の4月から、御宿小学
校と岩和田小学校の統合や保
育所の年齢別保育など、町に
おいても変革の時期を迎えて
おりますが、町の将来につぎ
ましては、住民の皆さまの意
見を踏まえ住民の皆さまと、
行政と議会が一体となつて、
手を携え、前進していけるよ
う日々活動してまいります。

どうか皆さま方の温かいご
支援、ご鞭撻を心からお願
い申し上げます。併せて皆さま方の
益々のご健勝、ご多幸をお祈
りいたしました。新年のごあ
いさつといたします。

さて、国内情勢は昨年9月
に小泉政権から安倍晋三政
権が発足し、前政権が進め
てきた構造改革や「骨太の方
針2006」（平成23年度に
は国財政における基礎的収支
の黒字化が目標設定）を引き

こととなつています。

町議会においても、昨年11
月に県から千葉縣市町村合併
推進構想(案)により合併の組み
合わせが提案されるなか、地
方自治の考え方を鋭意検討す
るとともに、地方自治法の改正

支援、ご鞭撻を心からお願
い申し上げます。併せて皆さま方の
益々のご健勝、ご多幸をお祈
りいたしました。新年のごあ
いさつといたします。

しかしながら日々変化する
社会情勢の中で、先送りや
妥協を繰り返す猶予はありま
せん。限られた予算で各種施
策を推進していくにあたって
は、執行体制の強化・充実に
関ると共に、職員一人ひとりに
「町民のために何をすべき
か」という問題意識と実践力
ある行政のプロとして「郷土・
御宿のまちづくり」のための
強い意欲とプライドを再認識
させ、職員一同、職務に励む
所存でございますので、議会を
はじめ町民の皆さまの更なる
ご支援とご協力を賜りますよ
うお願い申し上げます。

Onjuku 2006

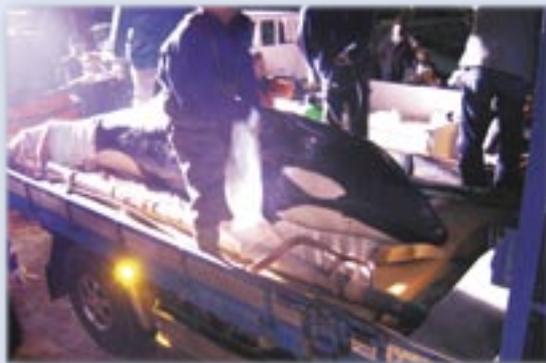
3. 地域おこしの皆さまの熱意が 大きく開花



4. 御宿分署にも高規格救急車が配備



7. 大勢の方の協力によりシャチが救出されました



平成18年 御宿町 **10大ニュース**

1. 平成19年4月からの御宿小学校と岩和田小学校の統合が
6月議会で決定される(6月)
2. 議員定数を2名削減し、19年の選挙から12名に決定される(3月)
3. 町民参加型の新手法による花火大会開催(8月)
4. 広域消防御宿分署に高規格救急車配備(3月)
5. 体育祭4年ぶりに開催(10月)
6. 落雷により町全域に被害多発する(10月)
7. 岩和田海岸でシャチ救出(2月)
8. 猪の被害多発による一斉捕獲を実施(3・5・6・10月)
9. 指定管理者制度、広報・ホームページ広告掲載事業導入(6月)
10. 行政組織を再編し、勤務体制が午後5時30分までとなる(4月)